

2020年度事業報告

事業概要

2020年1月から感染の始まった「新型コロナウイルス感染症」の本格的な広がりにより、一年を通して、ショップ事業は大きな影響を受け、事業高の減少と、予防対策の実施を余儀なくされた一年でした。

2020年春の緊急事態宣言発出下では、神奈川県の実請を受け、4月11日から5月31日までショップの休業を決め、6月は、時短営業（12時～17時）と寄付品受付の中止、ボランティアの参加の休止、7月以降は、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しながらほぼ通常営業としました。

活動においても、多人数が集まることができなかつたために、年度初めの総会は、書面による議決となり、WE講座も実施することができませんでした。

国の持続化給付金、家賃給付金、神奈川県の実力金（1次、2次）、神奈川県市民公益活動緊急支援助成金を受けることができ、7月には、修正予算を策定して、事業を実施しました。

1月の新型コロナウイルス第3波においては、ショップのボランティアおよびスタッフのもしもの時の対応について、「WE21 ジャパン都筑 新型コロナウイルス感染者への対応ガイドライン」を策定しました。

環境活動の拠点として、また地域の人々が少しでもほっとできる空間として継続できるよう、感染予防策をとりながらできる限りの活動を行いました。

事業報告

1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

2020年度リユースリサイクル売上 3,534,722 円（目標比 62%、前年比 66%）

2020年度ショップボランティア 新規登録 4名

2020年度は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、約1か月半の休業及び1か月間の時短営業を行いました。売上げの柱である年3回のセールのうち開催できたのは冬のセールのみで、着物フェアの開催も断念せざるを得ませんでした。また寄付の受付も2か月に渡り停止しました。密の回避、感染防止のためボランティア活動を縮小し、最少人数でのショップ運営を行いました。

※月ごとの詳細は2020年度活動実績を参照

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア延べ（実人数）	寄付者（新規）
2020年度	3,534,722 円	4,893 人	319 人（17 人）	1312 人（47）
2019年度	5,339,913 円	6,797 人	753 人（19 人）	1853 人（88）
前年比	66%	72%	42%（89%）	71%（53%）

1) 専門家のアドバイスを受け、ショップ内の改装を行いました。ガラス越しに外から見えるよう食器の棚を移動、新しい照明器具を設置し店内が明るくなったとお客様からも好評です。毎月1日、15日を何かがお得に

なる「わくわくデー」とし、来店のきっかけ作りをしました。多くの人を集める企画は開催できませんでしたが、季節感のある売り場づくりや、目先の変わる陳列などを心掛け、コロナ禍でも来店して下さるお客様の楽しみとなれるような店を目指し努力しました。

2) 従来の着物フェアに代わり、着物をショップに常設するようにしました。毎月 10 日、20 日を着物の入替日と決め、お客様の来店を促すようにしています。また、12 月には着物の半額セールを行い、着物好きのお客様が多く来店されました。

3) 7 月の通常営業再開時にお買物をして下さったお客様に半額割引券を配布し、中止となった夏の半額セールに替えてお得なお買い物を楽しんでいただけるようにしました。コロナ対策の専門家のアドバイスを受け、ショップ内の換気対策をし、入場制限をするなどして冬のセールは通常どおり開催することができました。

4) Facebook やジモティをショップの情報発信に役立てました。これらの情報を見たと思われるお客様が来店されたり、電話やメールでの問い合わせを受け、手ごたえを感じました。

5) 若い顧客の獲得を目指して企画した「お下がり交換会」はタウンニュース、ロコっちなどのメディアに取り上げられ若い世代の来店につながっています。今年は1回のみで開催でしたが、子育て世代に定着していくよう継続していきます。

6) 今年度のボランティア活動は、新型コロナウイルスの流行により大幅に制限せざるを得ませんでした。ボランティアがショップ内で食事をとらなくて済むように活動は短時間とし、新規ボランティアの勧誘も積極的には行いませんでした。しかし、連携する地域施設からの紹介や以前に行ったイベント等をきっかけに、4名の方からボランティアの申し出をいただき、新たなボランティアとしてお迎えすることができました。

7) リメイクチーム

コロナによる影響で休止していましたが、10 月から活動を再開しました。今年度は、9 名の参加で行いました。メンバー同士制作物の提案や、アドバイスなどを行いながら、バラエティを増やしています。今年は、小物だけでなく、チュニックなどの衣類にも取り組み、ショップでも好評でした。他ショップ見学など研修はできませんでしたが、どのような作品が望まれているのか、これからも研究を続けていく予定です。

8) 資源の有効利用

整理整頓を心がけ、衣類は季節ごと、雑貨は品目ごとにまとめて管理し寄付品が有効活用されるように工夫しています。従来の「衣類・雑貨」というくくりを越え、テーマを設定し商品に付加価値をつけて販売しました。ジモティーや Facebook を使い、広く商品情報を知らせることで販売に役立て、廃棄を減らす努力をしました。

ショップという拠点を生かし、羽毛布団の回収を行い、WE ショップが資源の有効活用に取り組んでいることをアピールしました。WE21 ジャパングループの一員として、家庭での使用済み食用油の回収に取組み、「WE 油田つづき」を継続しました。

本年度も故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。

■羽毛回収 74kg(1kg以上 57枚、1kg未満 11枚、ダウンジャケット 23着)
(CO₂削減量 130kg)前年比 1,321%

■廃食油回収 190Kg (CO₂削減量 494kg) (前年比 83%)

リサイクル提携先

古布 : ナカノ(株) 横浜市金沢区福浦2丁目 8-8

廃食油 : (株)ユーズ 東京都墨田区八広 3-39-5

羽毛布団 : (一社)グリーンダウンプロジェクト 東京都北区田端 6-4-22

【日時】 通年

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア月平均 36名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 4,993,087 円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業 (民際支援事業)

1) 民際支援事業

2020年度の新たな支援先である、NPO法人ACEのピースインドプロジェクトにおいては、新型コロナウイルスにより、とりわけ支援地の人々は大きな影響を受けました。私たちが支援してきた日本のNGOのスタッフも現地に入ることが出来ず、2020年度は、現地パートナーNGOによって、新型コロナによる生活困窮者への緊急支援が中心となりました。

①インドのコットン生産地における児童労働をなくす取り組み(コロナ緊急食糧支援含む)

店頭で募金箱を設置して、年間募金を呼びかけました。また組織として、2020年度末の剰余金の中から、支援を決定しました。

助成団体:特定非営利活動法人 ACE

現地NGO:SEED(Society for people's Economic&Educational Development)

事業名:ピース・インド・プロジェクト

助成金額:100,000円

②イラク・シリア支援 チョコ募金

店頭にてチョコレートを置き、募金を集めました。イラクの小児がんの支援、シリア難民支援、新たに建設されたJIM-NETハウスの運営、福島の子どものための支援に使われました。

募金先:特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)

事業名:イラクの小児がんの医療支援・シリア難民医療支援・福島の子ども支援

募金額:111,300円

③ソルト・パヤタス コロナ緊急食糧支援

総会の案内送付時に会員に寄付をお願いしました。店頭募金箱を設置しました。

ソルト・パヤタスの活動地でコロナ禍で収入を絶たれた人への緊急食糧支援に使われました。

寄付先:特定非営利活動法人 ソルト・パヤタス

寄付金額:23,000 円

④いわき放射能市民測定室たらちね 緊急募金

店頭募金箱を設置しました。新型コロナウイルス対策を強化することに使われました。

寄付先:特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

寄付金額:10,000 円

⑤かながわ生き生き市民基金

店頭募金箱を設置し募金を集めました。かながわ生き生き市民基金を通じて 神奈川県内の新型コロナウイルスにより困窮した人々を緊急支援しました。

寄付先:公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

寄付金:8,000 円

⑥フードドライブ

10 月、店頭にて、食料を集めました。(20 日間、97 点、41kg)フードバンクかながわを通して、食料支援しました。

寄付先:公益社団法人 フードバンクかながわ

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金
ピースインドプロジェクト	100,000 円	
JIM-NET チョコ募金		111,300 円
ソルト・パヤタス緊急支援		23,000 円
いわき放射能市民測定室たらちね 緊急募金		10,000 円
かながわ生き生き市民基金		8,000 円
合計	100,000 円	152,300 円

2) 民際収益事業

昨年度は、私たちの暮らしに身近な、インドのコットンの生産地での児童労働をなくす取り組みに支援を始めました。そこで、児童労働によって作られた製品ではないものを購入するにはどうしたらよいか、という観点から フェアトレード・フェアを実施し、選択肢の一つである「フェアトレード品を購入すること」を店内で紹介しました。

①シサム工房オリジナルのインドのコットン製品や雑貨の販売(フェアトレード・フェア期間(2020年9月16日～10月15日))

②バアヤン村コーヒーの販売(フェアトレード・フェア期間(2020年9月16日～10月15日))

③パレスチナオリーブオイル・オリーブ石けんの販売(常設)

イスラエル・パレスチナの平和のために設立されたオリーブオイル生産団体のガリラヤのシンディアナのオリーブオイル(2018年日本オリーブオイルソムリエ協会銀賞受賞)とパレスチナ西岸地域のナーブルスで生産されたオリーブ石けんを、店内で販売しました。

④ジンジャーティー販売(常設)

フィリピンの北ルソンの山岳地域の3つの村の生産者組織が、収入向上と保健事業のために生産するジンジャーティ(しょうが糖)をWE21グループで計画購入し、店内で販売しました。

年度途中から「森育ちのしょうがパウダー」に名称を変更し、パッケージも新たになりました。

⑤シサムコーヒー(常設)

コーヒーの森事業で収穫できたフィリピン北ルソンのオーガニック栽培のコーヒーを店内で販売しました。

⑥タオル販売(福島オーガニックコットン)(常設)

店内で販売しました。

製品	支援団体	仕入額	販売数
コットン製品、雑貨	シサム工房	82,940円	
オリーブ石鹸等オリーブ製品	合同会社パレスチナ・オリーブ	54,216円	オリーブ石鹸 16 オリーブオイル大 10 オリーブオイル小 22 ザータル 5
ジンジャーティ	ウバパス/ダイヨコン/ランパダ/シュントック財団	7,560円	14
シサムコーヒー	シサム工房	10,354円	9
バアヤン村コーヒー	コーディレラ・グリーン・ネットワーク	4,536円	10
合計		159,606円	

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5名

【受益対象者】 福島・神奈川の市民、アジア等(インド・フィリピン・イラク・シリア・パレスチナ)の市民

【事業支出額】 422,812円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育活動）

1) フェアトレード・フェアを実施し、エシカルな生産と消費について理解を深めました。

コットン生産地の児童労働をなくすために、また、生産地での女性が搾取されることなく自立できるように 私たちができることとして、フェアトレード品の紹介をショップ内で行いました。

安いものを大量に生産、大量に消費し捨てられていく現在の状況の中で、児童労働者や女性の過酷な労働が問題になっています。私たちは、「何を買うか」が「どのような世界にしていきたいのか＝搾取や児童労働のない世界」の行動になることを 提案する取り組みとしました。「何を買わないか」については、アパレル業界は複雑な産業構造となっており、安く大量に生産される製品について細部にまで調査することが出来ません。

市民が消費のありかたを変えていくこと、企業に対して「児童労働や搾取のない製品」を求めていくこと、フェアトレード品を利用することなどは、たくさんのコットンを輸入している日本の市民ひとりひとりができることであることがわかりました。

2) 名称とパッケージが新しくなった「森そだちのしょうがパウダー」と生産地の様子をパソコンで映像を流し、店内で紹介しました。

3) つづき人交流フェスタ(都筑区主催)に参加しました。

パネル展示を通じて、リサイクルと民際支援を紹介しました。

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5 名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 11,880 円

4. 法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

1) 一時中断していた、HP は、横浜市民活動助成金を使って、新規に開設することができました。ブログに替わり、日々の情報も発信できるようになりました。

2) WE21 ジャパン都筑ニュースを 3 回(春、秋、冬)発行し、支援先決定、フェアトレード・フェアの案内、冬セールとチョコ募金のお知らせをしました。年度末緊急セールのチラシを急遽発行し、一部地域配布しました。

	部数	内容	配布
4月	4500	支援先決定、アニバーサリーセールのお知らせ	ボランティアによる地域配布
9月	7000	フェアトレード・フェアのチラシ	新聞折り込み（センター北周辺、3000部） ボランティアによる地域配布
11月	400	冬セールとチョコ募金のお知らせ、 コロナ下での支援先情報	協力者へ郵送とショップ内配布
3月	3000	年度末緊急セールチラシ	ボランティアによる地域配布

- 3) セールのお知らせは、タウンニュースを利用して、お客様に周知を図りました。
- 4) コロナ下で、思うような活動ができませんでしたが、ニュースをお客様にも配り、活動をお知らせしました。
センター南の地域情報発信サイト「ロコっち」に、ショップからの情報を載せてもらいました。
- 5) 支援先のパネル、ポスターの掲示、キャンペーン、募金の結果のお知らせをしました。
- 6) Facebook を始めました。より多くの人とつながって活動の輪を拡げていきます。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア 14名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 391,946 円

組織活動

1) 運営委員会

運営委員会は年度初めに年間の日程を決定して毎月開催しました。コロナウイルス感染防止のため集まることができなかつたときは、電磁的方法や、ZOOM を使って開催しました。

運営委員の役割分担を明確にし、方針に沿って、コロナ感染の状況を踏まえながら計画を立て実行しました。

2) 会員

今年度はコロナ禍のため、会員拡大のための活動が例年のようにはできませんでしたが、来店者へのニュース等の広報物の配布、支援先の情報の掲示、ブログの活用などで活動のアピールを行いました。

既存の会員にもニュース、ブログ等で活動を知ってもらい、理解、共感を深めてもらえるよう活動しました

認定 NPO 法人として活動や寄付メリットの周知に努めたことにより、19 名の方から寄付をいただくことができ、賛助会員も増やすことができました。

正会員実績 25 名（新規 1 名 退会 3 名 賛助会員への移動 2 名 2019 年度末 29 名）目標 32 名

賛助会員実績 11 名（新規 1 名 正会員からの移動 2 名 2019 年度末 8 名）目標 10 名

寄付者 19 名（内 3 名は会員外）

3) 事務局体制

今年度は専任の組織事務局は設置せず、運営委員で役割分担を明確にして円滑な組織運営が出来ました。会計、税務、法人運営の届け出等については、外部に委託しました。

ショップ事務局はコロナ禍への対応のため事業計画の変更を余儀なくされましたが、柔軟に対処することにより滞りなく運営することができました。

4) ボランティア活動

今年度は、コロナの感染予防のため、ショップボランティアには積極的な活動の呼びかけができず、活動は縮小となりました。リメイクチームは、限られた活動の中で、意欲的に活動することができました。

5) WE21ジャパングループとの連携

WE21ジャパン・グループ会議、ZOOM 活用講座、ジンジャーティ報告会にオンラインで参加し、運営に役立てました。

神奈川県のコロनावィルス助成金に関して、NPO 法人も対象にしてもらえるよう、他の地域 NPO と共に、要望書を提出しました。

6) 地域との連携

今年度は、中学校の職業体験、つづき MY プラザのハート de ボランティア企画は中止となりました。

就労体験については受け入れ態勢ができず、受け入れることができませんでした。

生活クラブ運動グループが行う「(横浜市におけるカジノを含む総合型リゾート施設(IR)誘致についての住民投票に関する条例の制定を求める)横浜市条例制定請求者署名」の回収場所として協力しました。

つづき人交流フェスタ(都筑区主催)のパネル展示で参加し、WE21ジャパン都筑の活動を紹介しました。

都筑相談窓口におブザーバー参加し、相談事業や、活動情報を共有しました。相談窓口のパフレットを店頭に置きました。

地域通貨「リーフ」を活用して、地域のボランティア活動を応援しました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 275,807 円